

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 2 月 9 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3873600377
事業所名	グループホーム白雲
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	越智 保子
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 5 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者、個々の残存能力を生かしその人らしい生活が出来るよう支援する。 ・入居者が自信と生き甲斐を持って生活出来るよう計画を立てる。 ・一人一人を尊重し楽しい共同生活を送れるよう、家庭としての環境を整える。 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>※項目番号2・・・課題、利用者の入居までの生活におけるスタイルや生活上のこだわり、生きがいなどに関する情報が不十分である。(個別に作成しているフェイスシートへの記載なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組んだこと・・・フェイスシートに入居までの生活様式(こだわり、生きがいなど)の欄を新たに設け、書式の見直しを行った。利用者の会話の中で、ヒストリーノートを初めて導入し昔の事などを聞き出し、記載出来るように体制を整えた。又、面会の際、家族にも確認しながら内容を再確認していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で面会ができたとしても短時間で、家族と中々話す機会がなく、聞き出しが難しくなっている。 ※項目番号51・・・課題、地域住民から事業所が相談窓口となる様な取り組みがあまり出来ておらず、地域のケア拠点としての機能が不十分である。 ・取り組んだこと・・・現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年開催していた茶話会も出来ていない、地元サロンが休止している事もあり、感染のリスクも発生する為、参加が出来ず、地元住民との関係が薄くなっている。サロン再開時には、サロン参加者から問題点などがあればアドバイスが出来ればと考えている。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は高台の山際に立地しており、見晴らしも良く、緑の木々に囲まれ自然豊かな環境となっている。利用者は、洗濯物干しやたたみ、花壇の世話、調理の手伝いなど、できることを職員と一緒にやっている。16年と20年の勤続年数の長い職員も在籍しており、アットホームな雰囲気、利用者の生活を支援することができる。また、建物内部の掃除や整理整頓が行き届き、利用者は思い思いの場所で、快適に過ごすことができる。さらに、医師である代表者は、看取り支援を積極的に行っており、職員は家族の要望があれば、宿泊できるように配慮した対応をするなど、最期を一緒に迎えることができるような支援にも取り組んでいる。加えて、法人内のグループホームで指導力を発揮してきた現管理者は世代交代を考慮し、信頼できるホーム長に期待を寄せながら、自信が持てるよう育成していきたいと考えている。開設から19年目を迎え、地域の知名度も高く、利用者のニーズに応えられるように、さらなる飛躍が期待できる事業所である。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	事前調査時や契約時に入所前の生活についてご本人やご家族から情報収集を行い、希望や意向の把握に努めている。	◎	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者から思いや意向などの聞き取りをしている。思いや希望を言われる利用者が少なくなってきたが、日中のゆとりのある時間帯のほか、入浴支援時に利用者1対1になる機会などを活用して、職員は利用者からゆとりと話しを聞くようにしている。「あれが食べたい、買いたい物に行きたい」などの思いや要望が出され、柔軟な対応をしながら、日々の支援に繋げている。管理者は、「人員不足が解消したら、もっと話しが聞ける時間を増やしたい」と考えている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の関わりの中で、気持ちを職員で話合ったりご家族から情報を得られるようご本人の立場に立った視点で検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	2ヶ月に1回、ご利用者様代用、ご家族様代表、地域住民代表、知見を有する方、行政の職員様に参加して頂き、円滑に運営出来ている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護記録、申し送りノートを活用し、ケアカンファレンスのモニタリングの際、意見交換を行っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	カンファレンス等で意見交換は行っているが、職員の思い込みで対応する場合がある時がある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	これまでの生活スタイルをご本人様、ご家族様、入所前の担当ケアマネジャーなどから情報収集を行っている。	/	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、フェイスシートやアセスメントシートを活用して、生活歴やこだわり、大切にしてきたことなどの聞き取りをしている。また、以前利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員のほか、デイサービスの関係者等から情報を聞くよう努めている。前回の目標達成計画から、フェイスシートなどの詳細な情報収集に努めるようになっていく。把握した情報は、フェイスシートやアセスメントシートに取りまとめ、職員間の情報共有に努めている。今後は、行政から認定調査時の情報をもらうことを予定している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活動作の中で、「できること」「できそうなこと」を職員と話し合いアセスメントを取っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録、介護日誌、申し送りノートを活用し把握できている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご本人の発語や様子を観察しながら、何を求めているのか見当している。	/	/	◎	毎月実施するカンファレンスの中で、利用者の課題を挙げるとともに、アセスメント情報やモニタリング情報などをもとに職員間で話し合い、より良いサービスの提供に努めている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアカンファレンス等で課題の周知を行っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	なるべくご本人の思いや意向、暮らし方を反映できるよう努めているが、ご本人の希望通りにはなっていない時がある。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	介護計画の見直し時、必ずご本人、ご家族様と意見交換を行っており、医療に関しては主治医、医療連携看護師と意見交換を行っている。	○	/	○	事前に、利用者や家族から意見を聞き、把握した情報やモニタリングの情報をもとに、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。計画の原案をカンファレンスの中で、職員の意見やアイデアを出し合いながら話し合い、具体的な計画を作成している。「歩行器等で安心して歩くことができる、手伝いに参加したい」などの利用者の発した言葉を、目標やサービス内容に反映させることもできている。
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	現在の身体状況やご家族の話を参考に介護計画を作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族等の協力はありますが、地域との協力体制が出来ていないため、介護計画には反映できていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	全職員が介護計画を把握しており、介護計画に沿ったケアを提供出来ている。	/	/	○	介護記録には、短期目標とサービス内容が転記され、職員は記録の記載時に、短期目標の番号と照らし合わせながら、職員間で計画に沿った統一した記録を残すことができる。また、気づきの欄などにも、普段と違った利用者の様子などを記載することもできている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアカンファレンス等でケアの実践、結果を話しあっている。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月のカンファレンスで、利用者様一人ひとりのモニタリングを行ない、期間内の計画の見直しを行っている。	/	/	○	6か月に1回介護計画の見直しをしている。その際には、再度アセスメントを行い、新たな情報に更新することもできている。また、期間内においても、毎月実施するカンファレンスの中で、利用者一人ひとりのモニタリングを行い、現状を確認している。3か月に1回、家族にモニタリング表の報告を行い、満足度などの評価をもらうこともできている。さらに、利用者の状態に変化が見られた場合には、その都度新たな計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	月1度ホーム便りを送付しているが、変化のない利用者様には確認ができていない。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	骨折、病気が発症した場合はその都度ケアカンファレンスを行ない、ご家族や医療従事者と見直しを行ない新たな計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月1回ケアカンファレンスを開催し、緊急案件時もミニカンファレンスを行っている。	/	/	○	毎月カンファレンスを実施し、利用者の現状確認のほか、利用者の課題解決に向けた話し合いが行われている。月1回業務カンファレンスが行われ、職員間で情報共有や勉強会などを実施している。緊急案件のある場合には、その日の夜に家族にも声をかけ、緊急カンファレンスを行っている。また、カンファレンスの開催は、全ての職員の参加を基本としているが、夜勤職員は利用者のそばを離れることができないために、後日議事録の確認を行い、情報を共有するようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	現状の課題や問題点を上げ他の職員の意見を聞いている他、職員から気になることもきいており活発な意見交換が出来る。	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	会議の開催が夜間が多いため、夜勤者の参加は出来ないが議事録や資料を回覧、配布している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	毎日業務日誌や申し送りノートで確認出来ている。	◎	/	○	日々、申し送りを実施している。業務日誌や申し送りノートを使い分け、出勤時に職員は必ず確認を行い、確認後にはサインを残すようになっている。また、サインのない場合には、管理者が職員に再確認を促すなど、確実な情報共有に繋げている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その日したいことは把握できているが、実現できない所がある。	/	/	/	リビングで、脳トレやプリント、パズル、数字合わせなど、職員は利用者へ声をかけて、やりたいことを自由に選んでもらうことができる。また、日常生活の場面でも、「どうしますか」などと職員は利用者へ細やかに問いかけて、意識せずに自己決定できるよう支援している。さらに、訪問調査日には、職員と一緒に歌を歌いながら、利用者とは喋る様子を見ることができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	自己決定が出来る利用者様には機会や場を設けているが、自己決定できない利用者様には確認できていない時もある。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	一人ひとりのベースで支援出来ている日もあるが、職員側の決まりや都合で行っている時がある。(入浴等)	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	コロナ禍になり、外食、外出はできていないが施設内で出来る企画を毎月実施出来ている。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	コミュニケーションを取りながら表情に注意しながら対応しているが本人の意向に添えてない場合がある。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	職員は「人権」や「尊厳」は理解しているが、排泄等の声掛けに配慮出来ない時がある。	◎	◎	○	定期的に、身体拘束委員会の中で、人権や尊厳などを話し合うとともに、勉強会で学び、職員の理解促進や意識向上に繋げている。時には、トイレ誘導時に、耳の遠い利用者に対して、職員が少し大きめの声かけになることもあるが、利用者へ嫌な気持ちを与えないような配慮も行われている。また、居室への入室時に、職員はノックや声かけなどの配慮を行い、確認の上で、入室することができる。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者様の性格なども考慮し配慮しながら介助を行っている	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室は利用者さまの場所である事は理解しているが、職員サイドで入室している時がある。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に説明があり、プライバシー保護や個人情報漏洩について法人と契約を結んでいる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者さまにホームの手伝いをして頂いたり、お互い感謝の気持ちを伝える関係性は築けている	/	/	/	こだわりのある利用者には、職員が寄り添い、穏やかな気分になれるような対応を心がけている。時には、座席を変更するなどの配慮を行い、利用者同士の未然のトラブルの防止に努めている。中には、大きな声を出す利用者も見られるが、職員が早期に気づき、周りの利用者への配慮をしている。また、リーダー的な利用者もおり、周りの利用者へトイレの声をかけをしたり、洗濯物のたたみ方の指導をしたり、励ましの声かけをするなど、職員が大いに助かる場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	仲の良い利用者様同士で寄り添う時間を提供している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者さま同士の関係性の把握は出来ており、口論の仲裁に入ったり、席がえをしたり仲良くできるように工夫している	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様の問題行動でトラブルになる可能性はあるが、その時はさりげなく声をかけ当人同士の距離を置くようにしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居契約時、ご本人やご家族様から情報を得ているが十分ではない	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナ禍前までは、知人や友人の訪問があった利用者様もいらしたが、現在は出ていないのが現状である	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	現在コロナ関係で外出はできていないが、個人の思いの外出は出ていない。	○	×	○	コロナ禍において、外出や行動の制限が設けられ、外出できる機会が減少していたが、令和4年の秋頃から、法人として利用者の外出許可が出され、ドライブをして、紅葉やイルミネーションなどが見に行けるようになり、利用者にも喜ばれている。また、買い物や外食にも出かけるようになり、利用者が思い思いのおやつを購入したり、回転寿司に出かけて、好きなネタを注文したりなど、管理者等は利用者の満足する笑顔を久しぶりに見ることができた。また、コロナ禍においても、重度の利用者も同様に、中庭に出て外気浴をしたり、散歩をしたりすることもできていた。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在できていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	勉強会を行ない、認知症の理解はしているが利用者さまの応じたケアが出来ているとは言えない	/	/	/	廊下での歩行訓練ほか、手すりを使用した立ち上がり訓練などを日課としている利用者もいる。中には、介護計画の中に、リハビリの項目を入れ、心身機能の維持に取り組む利用者もいる。訪問調査日にも、車いすからテーブルのいすに移乗する際に、職員は利用者一つひとつの丁寧な声かけを行い、全介助することなく、利用者の残存能力を活かしながら移乗させる様子を見ることができた。また、利用者には、できることをしてもらい、職員は見守りやできない部分の介助をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者さま一人ひとりのレベルに合わせ、排泄、食事、機能訓練等で現状の維持、向上が図れるよう取り組んでいる	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	職員は利用者さまの「できること、できないこと」を把握しており見守ったり、一緒に行ったりしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様のレベルに合わせて洗濯物たたみ、食器洗い、お盆拭き、食材切り等をして頂き自信に繋げている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、調理の手伝い、花壇の手入れなど、職員は利用者にも声をかけて、できることや得意なことを役割として担ってもらえるよう支援している。中には、洗濯物たたみなどを率先して行う利用者もいる。また、ラジオ体操時に、前に出て率先的に声かけや見本の動きを見せるなど、出番づくりを行うこともできている。さらに、食事の際に、テーブル拭きを数人が行う様子も見ることができた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	ホーム内ではできるだけ役割、や出番を作っているがホーム外ではなかなか出ていない。	◎	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	自分で選べる利用者様には選んでいたが、困難な利用者様に対しては職員が選んでいる。				自分で服を選び、着替えることのできる利用者もいるが、高齢化や認知症の進行に伴い、意思表示が難しい利用者には、職員が服装を決めざるを得ない場合もある。また、食後に、衣服が汚れた場合には、速やかに居室へ移動してもらい、着替えてもらうなどの対応をしている。中には、自分で電気シェイバーを使用して髭剃りを行う男性利用者もあり、剃り残しなどのフォローをしている。さらに、2～3か月に1回訪問美容の来訪があり、利用者は髪を整え、さっぱりと綺麗にすることもできている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	△	持ち物などは本人の好みであるが、髪型は出張美容に任せている時がある。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	×	職員側で決めている時が多い。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	自己決定出来る利用者様はその人らしい服装になっているが、困難な利用者様には職員が選んでいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカパーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	必要時に応じ対応しているが、他利用者の前でカパーしている時がある。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	出張美容で対応しており、本人の望む店には行っていない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	体型や状態に合わせている。			○	
		h	職員の髪型は、食事の準備の妨げにならないよう配慮している。	○	職員は髪型だけでなく、生活の一部だと理解している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員は栄養だけでなく、生活の一部だと理解している。				法人内にある複数のグループホームが、順番に1か月分の献立の作成を行い、業者から食材が配達され、利用者に食材切りや盛り付け、台拭き、配膳などのできることを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。旬の食材が出る時期には、食材を代用するほか、アレンジして、利用者に食事を提供している。これからの時期には、タケノコを使った料理を楽しみにしている利用者もいる。令和4年の秋頃から、外出制限が緩和され、外出時に利用者の好きな刺身を購入したり、誕生日が近いと寿司に変更したり、一緒に回転寿司に出かけるなど、利用者が食事を楽しめるような工夫も行われている。茶碗や箸、コーヒーカップは、自宅から持参するなど、自分用の物を決めて使用している。敬老会の際に、事業所から利用者全員に箸をプレゼントして、大変喜ばれている。現在の管理者に交代してから、食事の際に、職員は利用者と同じテーブルを囲み、食事を摂るようになっている。訪問調査日には、職員は全ての利用者と同じテーブルを囲み食事を摂る風景が見られ、調査員も一緒に食事をすることができた。職員は、「今日はお客さんがいるので、みんな静かですね」と笑いを誘う声かけも聞かれた。また、献立委員会で利用者の状態に合わせた調理方法などの話し合いをするほか、必要に応じて、医師や訪問看護師に食の相談をすることもできる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食材は業者の配達でまかなっているが、食材切りや後片付けは利用者さまとともにやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食材きり、盛り付けをお願いすると本人の役割だと思われ自信につながっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	契約時に本人、ご家族様に聞いており把握できている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	○	季節に応じた食材を使い、その月の季節行事にあった食事を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者さま一人ひとりのレベルに合わせ、主食をお粥にしたり、ミキサー食、刻み食を提供し盛り付けも工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	入所時は使い慣れたものを使用されていたが、機能低下や認知の進行で職員が用意している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	食事介助が必要な利用者さまもいらっしゃるが、一緒に食べていない職員が多い。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食堂が対面式の台所の前になるので、食材を切るまな板の音や臭いをかけられる環境である。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人ひとりの食量や水分摂取量は把握できおり、確保できるよう対応している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事が十分に摂れない利用者様にはエンシュアなどの栄養補助食品を提供したり、水分でむせ込みのある利用者様にはトロミをつけて提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は法人内の事業所で順番にさくせいしているが、施設内で定期的な話し合いが出来ていない。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材はその日の内に使い切り、調理器具も次亜塩酸ナトリウムで消毒している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	職員は口腔ケアの必要性、重要性を理解している	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、歯磨きなどの利用者のできる方法で、口腔ケアを実施しており、職員は見守りやできない部分の介助をしている。介助が必要な利用者の口腔内は確認することができているが、自立して、自分で歯磨きができる利用者までは口腔内の確認をすることができていないため、月に2回や1週間に1回などと決め、定期的に全ての利用者の口腔内の確認を行い、異常が見られた場合には、早期の歯科治療に繋がれることを期待したい。また、実施記録には口腔チェック欄があり、実施の有無を○×で記載することができているが、コメントが記入できるような工夫を行い、実施できなかった理由や状態などをコメントに残すことで、職員間の情報共有が行いやすくなると思われる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	職員は利用者さま一人ひとりの口腔内の健康状況を把握している	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医や歯科衛生士の指導を受けていない	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夜間はポリドントを使用し衛生に努めている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	歯ブラシで対応できない利用者さまにはガーゼ清拭を行ったり、口腔内の観察を行っている	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	職員は排泄が生活の一部だと理解しており、オムツが利用者さまの心身に与えるダメージについても理解している	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。睡眠の優先などから、夜間にパッドを使用せざるを得ない場合にも、日中に職員は声をかけて、利用者をトイレへ誘導するなどの支援に取り組んでいる。中には、利用者に合わせて職員の声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、失禁の具合や尿量などにより、排泄用品を使用する場合には、職員間で適切な用品の使用などを話し合うとともに、利用者の状態に合わせて、家族と相談しながら、パッドやリハビリパンツを選択している。さらに、カンファレンスの中で話し合い、パッドが合わない利用者に失禁パンツを使用するなどの工夫を行い、失禁がなくなった事例もある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	水分不足、運動不足、ストレスが便秘の一つだという事を理解している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	利用者さま一人ひとりの排泄の習慣やパターンを把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	夜間はバット交換の利用者さまでも、昼間はトイレ誘導を行い便座に座って頂き、トイレを基本として対応している	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分量を確認したり、運動を促すよう努めている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を使用し、排泄パターンや兆候を把握し声かけ、誘導を行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	職員間で話し合い、ご本人や家族との話し合いはあまり出ていない。種類を変更する場合はご家族さまに連絡している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者さま一人ひとりに合ったサイズや尿量に合わせて使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	運動の声かけ、水分補給を促しているが、薬にたよってしまう場合もある	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	×	夜間の入浴希望の利用者さまもいらっしゃるが、夜間の入浴は難しく、曜日、時間帯も職員サイドで決めている	◎	/	△	週2回、利用者は午前中の時間帯に入浴することができる。事業所として、利用者の入浴日を決めているが、入浴順や湯の温度、湯船に浸かる時間など、利用者の希望に応じた対応に努めている。職員の勤務シフトで希望に沿えない場合もあるため、利用者が希望する入浴回数や午後入浴希望などを合わせて、柔軟な対応が行われることを期待したい。また、入浴を拒む利用者には、無理強いをせずに、時間や職員を変えて声かけをするなどの工夫をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人ずつの個浴でリラックスできるよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存能力を生かしながら、できない所を介助している	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否が強い場合は無理強いせず、時間をあけて声かけしたり清拭に切り替えたりしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェックをおこない、また顔の表情を観察し入浴の可否を決めている。入浴後の状態も確認している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録に睡眠状態を記録し、職員間でパターンの確認が出来る	/	/	/	事業所には、安定剤を使用している1名の利用者がある。日頃から職員は、利用者が昼夜逆転しないように、日中に極力起きて過ごしてもらうなどの配慮をしたり、日中の活動量を見直したり、外気浴を取り入れるなど、夜間に利用者が安眠できるような支援に努めている。また、医師から、服薬の量の調整の許可が出され、管理者は利用者の様子を観察しながら、減薬に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、昼夜逆転にならないよう生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	日中活動や関わり方を工夫しているが、利用者のレベルによって安定剤を使用している時がある。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個々の生活パターンを把握し心身に負担がかからないよう支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	ご本人の希望があれば、ご家族様や知人、友人と電話できる環境は整っている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	電話の対応は出来ているが、手紙においては促しや手助けが出来ていない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	希望があれば電話を取り次いでいる。電話中はスタッフが近くで見守りを行い会話の橋渡しをする事も出来る	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙、葉書を利用者様本人に手渡し、読めない場合は代読しているが、ご本人が返信する機会は少ない	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	理解、協力を得られるご家族様もいらっしゃるが、協力を得られないご家族様もいらっしゃる	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	お金は紛失、盗られ妄想につながる利用者様もいらっしゃるため、施設で管理している。ご家族様の希望も多い	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	コロナの影響もあり現在は実施されていないが、ほしい物はスタッフが買って来ている	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	施設で預かり管理している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	入所時説明し施設管理で納得して頂いている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お金は紛失、盗られ妄想につながる利用者様もいらっしゃるため、施設で管理している。ご家族様の希望も	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出張マッサージを利用されている利用者様もいらっしゃる	◎	/	○	コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられた時期は、外出や外食などの対応できなかった要望もあった。外出制限が緩和され、買い物や外食などに出かけることもでき、利用者に喜ばれている。また、利用者の要望に応じて、出張マッサージの訪問を受け入れをしたり、家族の要望で、職員が通院の同行支援をしたりすることもあるが、要望は少なくなっており、出された要望には柔軟に対応している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関横の中庭に季節の花々を植えたり、玄関先に花を飾り親しみやすい雰囲気になっている。	◎	◎	○	建物の立地上もあり、近隣住民が気軽に立ち寄れる場所とは言い難いが、門扉は開放されている。毎朝、職員は広い庭を兼ねた駐車場をきれいに掃除をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	施設の照明は柔らかい暖色を使用しており、台所も別室ではなく同じフロアに設置している。台所は対面式なので利用者様と会話しながら料理を作っている。季節の飾り物や職員、利用者様と共同で作成した貼り絵を壁に貼って季節感を感じて頂いている。	◎	◎	◎	玄関には、敷地内に咲いている菜の花やスイセンが花瓶に活けられているほか、観葉植物を置き、すっきりと整理整頓されている。また、リビングにあるテーブルを合わせて、1つのテーブルとして利用者全員が向かい合いながら、レクリエーションや食事ができるようにしている。リビングの窓からは、手が届くほど近い場所に木々が眺められ、利用者は自然を感じることができる。さらに、小上がりの畳コーナーも設置され、共用空間の居心地の良い空間の雰囲気を引き立ててくれている。壁には、桜の木のちぎり絵や節分の飾り付けが行われ、外の眺めもあり、利用者は季節を感じられるようになっている。加えて、暖色の蛍光灯のほか、空気清浄機が置かれ、利用者の快適性にも配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の清掃と空気清浄機の設置で清潔を保たれるようにしている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	生活感のある暮らしを心がけている。中庭の木々を観賞して頂きながら季節感を感じて頂いている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者様が気兼ねなく過ごせるよう量の間を設置している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた馴染みの物を持って来て頂いている。	◎		○	居室には、ベッドや洗面台、エアコン、タンスが備え付けられている。利用者は使い慣れた物などを持ち込むことはできるが、持ち込みをする利用者は少なくなってきた。また、テレビやテーブルセットが置かれている居室があるほか、自分で掃除を行う利用者の居室には、バケツや雑巾が置かれるなど、自分らしい空間づくりをしている状況を確認することができた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	玄関の靴箱の横に長椅子を置き、靴の着脱がしやすいようにしている。トイレの場所が分かるように張り紙をしている。			○	建物はバリアフリー構造で、環境整備が行き届き、利用者の動線も確保され、車いすの利用者も合わせて、ゆつくりと往来できるようになっている。また、利用者が認識しやすいように、貼り紙をしてトイレの場所を分かりやすく表示するなどの工夫をしている。さらに、男性利用者が決まったトイレで落ち着いて、排泄できるような配慮が行われている。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞などは利用者様が手の届く場所に置いているが、その他の物品は必要な時に手渡している。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態に暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	代表者、職員は施設による利用者様のデメリットを理解しており、玄関の施錠は夜勤帯のみで、居室は24時間施錠は行っていない。	◎	◎	◎	全ての職員は、玄関や出入り口に鍵をかけることの弊害は理解しており、日中に玄関と門扉は開放されている。また、利用者の安全面に配慮して、ユニットの出入り口にはセンサーチャイムが取り付けられ、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時に施錠をしない生活の大切さと理解への説明を行っている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に確認した情報やご家族様からの聞き取りした情報を経過観察記録に記載している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者さまに変化が見られた場合、介護記録や業務日誌に記入し、速やかに主治医に報告し指示を仰いでいる				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医や医療連携看護師に報告し、指示を仰げる関係性を築いている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人の希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人やご家族様の希望を大切に、スムーズに受診できるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院はご家族様に報告し、受診後も結果を報告している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院までの経緯を、入院先の病院に情報提供をしており、病院との共有も出来ている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	できるだけ早期に退院できるよう情報交換、相談はできているが、日頃からの関係性はあまり築けていない				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	主治医の往診時に利用者さまの状態を報告したり、医療連携看護師に報告できる関係性を築けている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	24時間相談できる体制にはなっているが、緊急の場合は主治医に連絡する事が多い				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタル測定や入浴時の身体の確認を行ない、異常があれば主治医、医療連携看護師に報告し早期発見に努めている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	焼く情報で確認できており、内服変更があれば送りノートで周知できている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬は利用者さま一人ひとりの袋にいれて管理しており、のみ忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	確認を行ないながら経過観察している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	契約時や重度化した場合、ご本人、家族、主治医と相談しながら方針を共有している				事業所には、「重度化及び看取りに関する指針」があり、入居時に家族等に対応できることを説明している。利用者の状況に応じて、家族の意向の確認を行い、主治医や看護師と相談しながら、カンファレンスの中で、全ての職員が情報や方針を共有するよう努めている。また、法人・事業所として、積極的な看取り支援に取り組んでおり、24時間体制で医師や訪問看護師と連携して、チーム体制で支援している。さらに、看取り支援時に、家族は医師から説明を受け、事業所として看取り支援を経験しているが、他の施設や病院に転院する利用者もいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	職員や主治医、医療連携看護師お方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の思いや力量を把握しており、ホームで行える支援内容を説明している。職員の不安を少しでも軽減できるよう努めている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	法人の指針を説明し「できること・できないこと」を説明し理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族様の思いを配慮し、医療現場に繋げている。利用者様の状態の変化に応じ、ご家族様に意向をお伺いしている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族様の思いを配慮し、医療現場に繋げている。利用者様の状態の変化に応じ、ご家族様に意向をお伺いしている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	施設内の勉強会で年1回は実施されている。また、外部研修やオンライン研修に参加している				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成し、周知出来ている。また、医療連携と行政との関係性も築けている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	△	行政からの情報をスタッフに報告しているが、随時対応しているとは言えない				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手指消毒、うがいの徹底を行っているが利用者様のレベルで出来ない場合もある。来訪者にもマスクの着用、手指消毒をお願いしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	日頃の様子や体調について定期的に書面で送っている。体調変化の場合は報告と一緒に検討している	/	/	/	コロナ禍以前は、家族会の際に、家族同士の意見交換や食事をすることができていたが、コロナ禍において、家族会は中止され、家族が行事に参加できる機会はない状況となっている。事業所には面会制限が設けられているが、感染状況を見計らいながら、玄関先などでの家族との面会が可能となっている。また、毎月事業所便りの発行に合わせて、担当職員が書いた手紙を添えて送付し、利用者の様子を伝えている。さらに、職員の異動報告を事業所便りに掲載して報告しているものの、退職時の報告はできていないこともあり、利用者家族アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職などが十分に伝わっていないことが窺えるため、担当職員の異動等を報告したり、運営推進会議録の中に、事業所の出来事や職員の入退職などを記載して送付したり、設備改修や機器の導入を報告するなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。加えて、家族から意見や要望が言えるように、面会時や電話連絡時、手紙を活用して、意見を収集できる機会を設け、意見を聞くように努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	代表者が医者であり、定期的な往診時に要望、提案等を直接言える環境である。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)		電話や来所時に話しやすい環境を作っている。本人の暮らしぶり	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	電話や来訪時話しやすい環境を作っている。本人の暮らしぶりを毎月ホーム便りに載せ送付したり、個別に3ヶ月に1回ホームの暮らしぶりを写真を載せ送付している	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営上の報告は報告出来ているが、一般職員の異動に関しては報告できていない時がある	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	契約時、集団生活である事など考えられるリスクについて説明を行っている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	職員は笑顔で対応し話しやすい雰囲気作りには気をつけている。訪問時にはお茶などを提供し、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。宿泊は自由で食事の提供もしている。食事は自己負担でお願いしている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	運営上変更がある場合は必ず説明を行い、書面にて同意を頂いている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入院で退去される場合は情報提供を行っている。介護施設の転移の場合も同じく情報提供を行っており、ご本人、ご家族様の要望、意向を伝えている	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	町内会長や運営推進会議の構成員には説明を行っているが、一般の近隣住民には説明できていない	/	◎	/	コロナ禍以前は、事業所内で茶話会を開催したり、利用者と一緒に地域のサロンや夏祭りに参加したりするなど、地域住民との交流を図ることもできていたが、コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、地域行事がほとんど開催されていない状況となり、地域との関わりは難しい状況となっている。また、事業所周辺の散歩時に、挨拶や会話を交わす程度となっているが、以前から地域との良好な関係も築かれ、地域に事業所の存在は認知されている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	地域行事やイベントの誘いがあるため参加しているが、現在はコロナの影響があり参加出来ていない	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	×	支援して下さる地域の人たちはいらっしゃるが、増えてはいない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナの影響もあり、現在はできていない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらおうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナの影響で現在は出来ていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	働きかけを行っているとは言えない	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	コロナ禍のため定期的な交流は減っているが出張美容や訓練等で消防、警察の協力は得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	現在コロナ禍で参加は難しくなっているが、施設内で2ヶ月に1回行っており、運営推進会議の構成員や行政には議事録を送付している	×	/	○	運営推進会議には、利用者や家族、地域住民、他の事業所の管理者、市担当者等が参加して開催をしている。コロナ禍において、会議は書面開催となっており、行事報告や利用者状況、年間目標の振り返りなどを、会議の参加メンバーに報告することができているが、意見交換までは難しい状況となっている。会議には、家族の代表のみの参加となっているため、全ての家族に開催案内や資料を送付して周知したり、コロナ禍の収束後には、集合形式の運営推進会議や家族会等において、会議の意義や目的を説明したり、書面開催においても、会議の参加メンバーから意見を聞くなど、有意義な会議となるように、職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	利用者様の近況報告やホーム内の行事を報告しているが、サービス内容評価への報告はあまり出ていない	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	現在コロナ禍のため運営推進会議はできていないが、日程はご家族さま、構成委員や行政に配慮し日程を決めている	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	代表者、管理者、職員は理念を理解し共有できている	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	フロアに理念を掲示しているが、分かりやすい説明は出ていない	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文責の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	代表は管理者からの報告や相談によりスタッフの力量を把握し、必要に応じて研修に参加できるよう取り組んでいる	/	/	/	医師である代表者は、定期的に往診で事業所を訪れ、職員に声をかけて気軽に話しを聞くほか、職員と利用者の相談を直接行うこともある。実質は、管理者に運営が任せられ、職員と個別面接で意見を聞くほか、希望休や有給休暇を取り入れながら、シフト面においても働きやすい職場環境づくりに努めている。また、日頃から管理者は、職員の相談に応じるなど、話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、業務内容の意見がある場合には、管理者を通して、会社の総務に伝え、対応できる仕組みも構築されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員は年に1回は施設内の勉強会の担当者になりテーマ毎の勉強会を開催している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の査定シートによりスタッフの評価を行い、向上心を持って働ける環境は出来ている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	市のグループホーム連絡会は参加出来ているが、ネットワーク作りや相互研修は出ていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	代表者は日頃より意見や悩みなどに耳を傾けている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	高齢者虐待防止について、3ヶ月に1回委員会を実施している。議事録を一般職員にも閲覧し、全職員が理解出来ている	/	/	○	3か月に1回虐待防止委員会を開催して、職員間で話し合うほか、参加していない職員を含めて、議事録を全ての職員が閲覧し、周知を図ることもできている。また、身体拘束や虐待の防止などの勉強会で学び、全ての職員が不適切なケアを含めた正しい理解に努めている。また、利用者の安全面を優先することで、職員が大きな声で「待って」という言葉を発してしまうことも見られ、委員会の中でも、グレーゾーンの部分で課題となっているが、管理者はそのような場面に遭遇しないケアに努めるなどの注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	パワハラ、セクハラに気をつけて自己評価、個人面談にて確認あっている	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	個々の体調や悩み事など気軽に相談できる体制を作っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	3ヶ月に1回、委員会で会議を開催し、身体拘束の種類や色んな事例を検討し、議事録で職員は理解出来ている	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束廃止委員会やケアカンファレンスで話し合う機会を設けている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族等へその弊害に説明し納得して頂いている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	管理者は把握出来ているが、全職員が理解しているとは言えない。勉強する必要がある。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要になった時は相談出来る連携体制が築けている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、周知出来ている。また、医療連携との関係性も築けている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	全職員が消防署による救命講習を受けており、ある程度理解出来ている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故の発生は必ず報告を行い、ミニケアカンを開催している。ヒヤリハットにおいても報告を行い全職員が周知出来ている。また、記録に残している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者さま一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情マニュアルは作成しており、苦情が出た場合は迅速に対応できる体制は出来ている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば、本部窓口で報告し迅速に対応できる連携は構築出来ている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	前向きな話し合いと関係作りを努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	施設玄関に意見箱を設置しており、法人窓口でも対応している。	◎		○	日常生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、対応をしている。家族には、面会時や電話連絡時、手紙を活用して、職員から声をかけて、意見や要望を聞くよう努めている。また、事業所内には意見箱が置かれているが、面会制限が設けられていることもあり、ほとんど利用されていない状況となっている。さらに、管理者とホーム長は、職員との会話を大切にして、現場の声を聞くほか、カンファレンスの中で出された意見を参考にしながら、サービスの質の向上に努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書に苦情、相談できる窓口を記載しており、契約時に説明している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	定期的な話し合い意見交換、介護に対する認識など確認している。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的な話し合う機会を作り、意見交換を行っている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価が入る時はもちろんだが、入らない年も職員で自己評価の内容について話し合い、記録に残している。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者やホーム長等が意見を取りまとめ、ユニット毎に作成をしている。また、カンファレンス等の中で、職員にサービスの評価結果を報告し、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、運営推進会議の中で、評価結果を報告しているが、会議に参加していない家族にまでは報告することができていないため、全ての家族に、簡潔に取りまとめた評価結果を送付するなどの対応が行われることを期待したい。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族に、目標達成に向けた取組みの状況を報告したり、モニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、サービス評価の取組みの意見をもらいながら、サービスの質の向上に繋げられることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価の結果から今後の課題を確認し目標としての話し合いを行っている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価の結果を運営推進会議等で、今後の課題について話し合っているがご家族様と話し合う機会には設けていないのが現状である。			○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	職員や運営推進会議の構成員に結果を報告しているが、運営推進会議において取り組みについてのモニターを頂くまでには至っていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	様々な災害の発生に対してのマニュアルを作成しており、全職員が把握出来ている。	/	/	/	法人・事業所として、災害マニュアルを整備し、職員に周知をしている。年2回、様々な場面や災害を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍以前は、地域住民等も参加して、合同訓練を実施するほか、管理者等が、地区の自主防災組織の会合にも参加協力することもできていた。以前からの地域との関係性もあり、災害発生時に、地域住民や消防署、警察などの協力支援体制は構築されている。利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、家族に十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、避難訓練の様子の写真を事業所内に掲載したり、家族に避難訓練への参加協力を呼びかけたりするなど、家族等への安心安全な取組みが理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	コロナ禍前までは地域住民、消防署、警察の協力を得ながら訓練は出来ていたが、現在は自主訓練を年3回行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	全職員が避難経路を把握しており、非常食、備品、物品の点検、特に非常食においては賞味期限を確認している、	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	コロナ禍前までは地域住民、消防署、警察の協力を得ながら訓練は出来ており、協力、支援体制は出来ている。	x	◎	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地域、消防、警察との連携は出来ており、法人内の他事業所との協力も得られている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	x	積極的な参加が出来ていないのが現状である。	/	/	/	前回の目標達成計画に掲げて、地域のサロンへの参加や、地域住民との茶話会の開催などを考えていたが、コロナ禍において、実現に至っていない。また、コロナ禍が継続する中で、相談支援を行うことは難しい状況となっている。以前は、中学生の職場体験の受け入れに協力することもできていた。さらに、市グループホーム連絡会に参画して、他の事業所と意見交換をするほか、法人・事業所として、市行政や地域包括支援センターの会議や研修に参加する機会は少ないものの、連携や協力を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	x	事業所からの働きかけは行っていない。	/	○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地域住民、介護相談員等に声掛けを行い、カフェを開催していたが、コロナ禍中は実施出来ない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	介護人材や中学生のボランティアの受け入れを行っている実績がある。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	同市内のグループホーム連絡会に参加できており、他事業所と意見交換ができ、ネットワーク作りは出来ている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 2 月 9 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3873600377
事業所名 (ユニット名)	グループホーム白雲 2F
記入者(管理者) 氏名	中家 由美子
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 7 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者、個々の残存能力を生かしその人らしい生活が出来るよう支援する。 ・入居者が自信と生き甲斐を持って生活出来るよう計画を立てる。 ・一人一人を尊重し楽しい共同生活を送れるよう、家庭としての環境を整える。 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>※項目番号2・・・課題、利用者の入居までの生活におけるスタイルや生活上のこだわり、生きがいなどに関する情報が不十分である。(個別に作成しているフェイスシートへの記載なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組んだこと・・・フェイスシートに入居までの生活様式(こだわり、生きがいなど)の欄を新たに設け、書式の見直しを行った。利用者の会話の中で、ヒストリーノートを初めて導入し昔の事などを聞き出し、記載出来るように体制を整えた。又、面会の際、家族にも確認しながら内容を再確認していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で面会ができたとしても短時間で、家族と中々話す機会がなく、聞き出しが難しくなっている。 ※項目番号51・・・課題、地域住民から事業所が相談窓口となる様な取り組みがあまり出来ておらず、地域のケア拠点としての機能が不十分である。 ・取り組んだこと・・・現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年開催していた茶話会も出来ていない。地元サロンが休止している事もあり、感染のリスクも発生する為、参加が出来ず、地元住民との関係が薄くなっている。サロン再開時には、サロン参加者から問題点などがあればアドバイスが出来ればと考えている。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は高台の山際に立地しており、見晴らしも良く、緑の木々に囲まれ自然豊かな環境となっている。利用者は、洗濯物干しやたたみ、花壇の世話、調理の手伝いなど、できることを職員と一緒にしている。16年と20年の勤続年数の長い職員も在籍しており、アットホームな雰囲気、利用者の生活を支援をすることができている。また、建物内部の掃除や整理整頓が行き届き、利用者は思い思いの場所で、快適に過ごすことができる。さらに、医師である代表者は、看取り支援を積極的に行っており、職員は家族の要望があれば、宿泊できるように配慮した対応をするなど、最期を一緒に迎えることができるような支援にも取り組んでいる。加えて、法人内のグループホームで指導力を発揮してきた現管理者は世代交代を考慮し、信頼できるホーム長に期待を寄せながら、自信が持てるよう育成していきたいと考えている。開設から19年目を迎え、地域の知名度も高く、利用者のニーズに応えられるように、さらなる飛躍が期待できる事業所である。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	認知症が軽度の方からは、会話の中で聞き取り、なるべく希望に添える様支援しているが、思いがはっきりしない利用者からは聞き取りが難しく、家族の希望も聞き取り把握に努めている。	◎	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者から思いや意向などの聞き取りをしている。思いや希望を言われる利用者が少なくなってきたが、日中のゆとりのある時間帯のほか、入浴支援時に利用者同士1対1になる機会などを活用して、職員は利用者からゆとりと話しを聞くようにしている。「あれが食べたい、買いたい物に行きたい」などの思いや要望が出され、柔軟な対応をしながら、日々の支援に繋げている。管理者は、「人員不足が解消したら、もっと話しが聞ける時間を増やしたい」と考えている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	発語表情などを確認し、ケアカンファレンスで話し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族の面会がある方は家族から昔の生活習慣などを聞き、本人の思いについて話し合っている事はあるが、知人の面会は少なく、情報は少ない為、本心は探れない事が多い。コロナ過で、思うような面会が出来ず、情報が少なくなっている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	利用者からの希望が聞き取れた時には介護記録に落とす様にしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	日常の業務に流れて見逃してしまう事がある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前調査や担当ケアマネジャーや家族より、本人がどのように生活していたかなど聞き取り、記録に残している。	/	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、フェイスシートやアセスメントシートを活用して、生活歴やこだわり、大切にしてきたことなどの聞き取りをしている。また、以前利用していた居宅介護支援事業所の介護支援専門員のほか、デイサービスの関係者等から情報を聞くよう努めている。前回の目標達成計画から、フェイスシートなどの詳細な情報収集に努めるようになっていく。把握した情報は、フェイスシートやアセスメントシートに取りまとめ、職員間の情報共有に努めている。今後は、行政から認定調査時の情報をもらうことを予定している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	自立支援に向けて、出来る事、出来ない事の把握に努めケアカンファレンスで話し合っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	個別記録で日々の暮らしの様子を記録している他、いつもと違う事があれば、記録に落とし状態の把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	プランの見直しなどを行う際、本人に必要な事を検討しケアプランに活かしている。	/	/	◎	毎月実施するカンファレンスの中で、利用者の課題を挙げるとともに、アセスメント情報やモニタリング情報などをもとに職員間で話し合い、より良いサービスの提供に努めている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	日々の暮らしの中でケアプランを実施し、状態を記録し把握できるように努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いを組み入れアセスメントを取り、ケアプランに取り入れているが、本人の思いや意向が全部が全部反映できないこともある。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	毎月一回、もしくは、その時々で最善の介助を行えるよう職員と共有したり、ケアカンファレンスにおいて、話し合い、状態に応じて介助の仕方などを作成している。	○	/	/	事前に、利用者や家族から意見を聞き、把握した情報やモニタリングの情報をもとに、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。計画の原案をカンファレンスの中で、職員の意見やアイデアを出し合いながら話し合い、具体的な計画を作成している。「歩行器で安心して歩くことができる、手伝いに参加したい」などの利用者の発した言葉を、目標やサービス内容に反映させることもできている。
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	孤独にならないように他者と一緒に時間を過ごしたり、職員の声を聞けるようなケアプラン内容にしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	地域への協力体制は内容にいれていない。又、家族へ協力することもあがるが、ケアプランには入れる事ができていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	個人の介護日誌にケアプランを書き込みいつでも確認できるようにしている。	/	/	○	介護記録には、短期目標とサービス内容が転記され、職員は記録の記載時に、短期目標の番号と照らし合わせながら、職員間で計画に沿った統一した記録を残すことができる。また、気づきの欄などにも、普段と違った利用者の様子などを記載することもできている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケアの実践後、その時の状態や、会話、発語などを個別に記入し、いつもと違う時には申し送りにて職員間で把握出来る様になっている。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間終了月にはアセスメントを取り、ケアプランの見直しを行っている。	/	/	○	6か月に1回介護計画の見直しをしている。その際には、再度アセスメントを行い、新たな情報に更新することもできている。また、期間内においても、毎月実施するカンファレンスの中で、利用者一人ひとりのモニタリングを行い、現状を確認している。3か月に1回、家族にモニタリング表の報告を行い、満足度などの評価をもらうこともできている。さらに、利用者の状態に変化が見られた場合には、その都度新たな計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月一回モニタリングを行い、ケアカンファレンスにおいて状態の把握に努めている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	体調不良など著しく変化が伴う場合、医療連携看護師、主治医等の意見や、家族へ報告しながら見直しを行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	急なプラン変更などが生じた場合は随時ケアカンファレンスを行い、課題解決に努めている。	/	/	○	毎月カンファレンスを実施し、利用者の現状確認のほか、利用者の課題解決に向けた話し合いが行われている。月1回業務カンファレンスが行われ、職員間で情報共有や勉強会などを実施している。緊急案件のある場合には、その日の夜に家族にも声をかけ、緊急カンファレンスを行っている。また、カンファレンスの開催は、全ての職員の参加を基本としているが、夜勤職員は利用者のそばを離れることができないために、後日議事録の確認を行い、情報を共有するようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ち等を率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員全員が意見できるように声掛けを行いながら、意見を出し合えるようにしている。	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	欠席している職員や、内容を聞き取れなかった職員、見直しを行うためにも、その時話合った内容をメモし掲示出来る様になっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	業務日誌や申し送りノートに記載し情報伝達出来る様になっている。	/	◎	○	日々、申し送りを実施している。業務日誌や申し送りノートを使い分け、出勤時に職員は必ず確認を行い、確認後にはサインを残すようになっている。また、サインのない場合には、管理者が職員に再確認を促すなど、確実な情報共有に繋げている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	本人に「今日は何をしますか?」と問いかけているが、問いに答えられない利用者も多く可能な限り叶えられる様努力している。	/	/	/	リビングで、脳トレやプリント、パズル、数字合わせなど、職員は利用者へ声をかけて、やりたいことを自由に選んでもらうことができる。また、日常生活の場面でも、「どうしますか」などと職員は利用者へ細やかに問いかけて、意識せずに自己決定できるよう支援している。さらに、訪問調査日には、職員と一緒に歌を歌いながら、利用者とは喋る様子を見ることができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	本人が選択し提供できるような環境を作っている。おやつ等は現物を見せ、食べたい物を選んでもらっている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	個々のペースに合わせ無理にはしないようにしている。時間帯によって、時間的余裕がないときは自分たちのペースで進めてしまう時がある。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	個々の得意なことを行う機会や役割を持ち、生き生きした言動や表情が見られるよう声掛け等を行い、支援している。	/	/	○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	状態に合わせ本人に無理のない生活が送れるよう支援出来る様配慮しているが、今現在、重い症状の利用者はいない。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	三か月に一回、身体拘束委員会を開催し課題を話し合う機会を作っている。さりげない声掛けを心掛けてはいるが、出来ない時もある。	◎	◎	○	定期的に、身体拘束委員会の中で、人権や尊厳などを話し合うとともに、勉強会で学び、職員の理解促進や意識向上に繋げている。時には、トイレ誘導時に、耳の遠い利用者に対して、職員が少し大きめの声かけになることもあるが、利用者へ嫌な気持ちを与えないような配慮も行われている。また、居室への入室時に、職員はノックや声かけなどの配慮を行い、確認の上で、入室することができる。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	一対一の介助を心かけ、排泄時など終わるまで本人の目の届かないところで見守りしている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックや声掛けしてから居室に入るようにしている。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	ホーム外で漏洩することはない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	会話の中から職員が教えてもらうことは少ないが、いつも笑い合えるような関係性はあると思う。	/	/	/	こだわりのある利用者には、職員が寄り添い、穏やかな気分になれるような対応を心がけている。時には、座席を変更するなどの配慮を行い、利用者同士の未然のトラブルの防止に努めている。中には、大きな声を出す利用者も見られるが、職員が早期に気づき、周りの利用者への配慮をしている。また、リーダー的な利用者もおり、周りの利用者へトイシの声をかけをしたり、洗濯物のたたみ方の指導をしたり、励ましの声かけをするなど、職員が大いに助かる場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	生活リハビリの中で自然に利用者同士協力しながら行っている姿を見る事が出来ている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	男性利用者の仲が悪く、思うようなかわりには出来ていない。プライドを傷つけない声掛けや、利用者同士が鉢合わせにならない程度に個人の力を発揮できるよう配慮している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	本人たちの話を聞いたうえで生活に支障の無いよう配慮している。トラブルがある場合は間に入り、原因を探り距離感などに注意している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	地元から入所されている方に限定はされるが、馴染みのある集会所など把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	新型コロナウイルス感染症の影響で、近所の方たちとの交流が出来ず、関係性は途切れている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	現在の感染症の影響で外出はしていないが、希望があればホーム周辺を散歩することは出来る。	○	×	○	コロナ禍において、外出や行動の制限が設けられ、外出できる機会が減少していたが、令和4年の秋頃から、法人として利用者の外出許可が出され、ドライブをして、紅葉やイルミネーションなどが見に行けるようになり、利用者にも喜ばれている。また、買い物や外食にも出かけるようになり、利用者が思い思いのおやつを購入したり、回転寿司に出かけて、好きなネタを注文したりなど、管理者等は利用者の満足する笑顔を久しぶりに見ることができた。また、コロナ禍においても、重度の利用者も同様に、中庭に出て外気浴をしたり、散歩をしたりすることもできていた。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	今現在、出来ていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症について勉強会を行ったり、職員間で、介助に問題があることに気が付いた時は、その場で意見を話し合い、改善できるように努力している。	/	/	/	廊下での歩行訓練ほか、手すりを使用した立ち上がり訓練などを日課としている利用者もいる。中には、介護計画の中に、リハビリの項目を入れ、心身機能の維持に取り組む利用者もいる。訪問調査日にも、車いすからテーブルのいすに移乗する際に、職員は利用者についつの丁寧な声かけを行い、全介助することなく、利用者の残存能力を活かしながら移乗させる様子を見ることができた。また、利用者には、できることをしてもらい、職員は見守りやできない部分の介助をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	運動時間、排泄時間、レクリエーションを通して自然に機能向上が出来る様支援していると共に、体が覚えているラジオ体操を支援に取り入れている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	声掛けがなくても、自席に洗濯物を置いたりして自然に手が出る様工夫している。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人の得意なことを見つけ把握し、声掛けを行い実践し、自信に繋がるように支援している。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、調理の手伝い、花壇の手入れなど、職員は利用者にも声をかけて、できることや得意なことを役割として担ってもらえるよう支援している。中には、洗濯物たたみなどを率先して行う利用者もいる。また、ラジオ体操時に、前に出て率先的に声かけや見本の動きを見せるなど、出番づくりを行うこともできている。さらに、食事の際に、テーブル拭きを数人が行う様子も見ることができた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	生活動作の中に洗濯物干し、たたみ、食事の準備やラジオ体操の見本など活躍できる取り組みを行っている。食べる事が好きな利用者様は率先して取り組みが出来ていると思う。	◎	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	持っている衣類で好みや過ごしやすい服装で過ごしていることは把握している。				自分で服を選び、着替えることのできる利用者もいるが、高齢化や認知症の進行に伴い、意思表示が難しい利用者には、職員が服装を決めざるを得ない場合もある。また、食後に、衣服が汚れた場合には、速やかに居室へ移動してもらい、着替えてもらうなどの対応をしている。中には、自分で電気シェイバーを使用して髭剃りを行う男性利用者もあり、剃り残しなどのフォローをしている。さらに、2～3か月に1回訪問美容の来訪があり、利用者は髪を整え、さっぱりと綺麗にすることもできている。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよう支援している。	△	本人に合ったもの、持ち物などは家族と相談しながら整えられる様支援している。					
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員と相談しながら、その人に合ったものを選んでる。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	今現在は外出は出来ないが、外出行事時は本人に似あう服装と一緒に選んだり、自己決定が難しい人には職員が似合うものを選んでる。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくてカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食後、衣類が汚れている場合は、口腔ケアが終わった後、声かけし、衣類交換の支援をしている。	○	◎	○		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望があればだが、今現在は特定美容師に訪問して頂いている。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その人に合った髪型に出来る様支援している。			○		
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	一部、出来ない職員もいるのではないと思う。食にこだわりがない職員がいる為。				法人内にある複数のグループホームが、順番に1か月分の献立の作成を行い、業者から食材が配達され、利用者に食材切りや盛り付け、台拭き、配膳などのできることを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。旬の食材が出る時期には、食材を代用するほか、アレンジして、利用者に食事を提供している。これからの時期には、タケノコを使った料理を楽しみにしている利用者もいる。令和4年の秋頃から、外出制限が緩和され、外出時に利用者の好きな刺身を購入したり、誕生日が近いと寿司に変更したり、一緒に回転寿司に出かけるなど、利用者が食事を楽しめるような工夫も行われている。茶碗や箸、コーヒーカップは、自宅から持参するなど、自分用の物を決めて使用している。敬老会の際に、事業所から利用者全員に箸をプレゼントして、大変喜ばれている。現在の管理者に交代してから、食事の際に、職員は利用者と同じテーブルを囲み、食事を摂るようになっていく。訪問調査日には、職員は全ての利用者と同じテーブルを囲み食事をする風景が見られ、調査員も一緒に食事をすることができた。職員は、「今日はお客様がいたので、みんな静かですわ」と笑いを誘う声かけも聞かれた。また、献立委員会で利用者の状態に合わせた調理方法などの話し合いをするほか、必要に応じて、医師や訪問看護師に食の相談をすることもある。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物は業者が入っている為、出来ないが、調理には参加して頂いている。			○		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	調理に関することで笑顔になられたり、職員との会話がはずんだり、自身が持つ残存能力の維持につながっていると思う。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	好き嫌いの把握は出来ている					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	出来るだけ季節のものを取り入れ調理している。			○		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	口腔内の状況や嚥下状況などを踏まえ、食材に応じて刻み、ミキサーなど行い、一つ一つ盛り付ける様に努力している。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	箸、お茶碗、マグカップは個人個人用意している。			○		
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事時は利用者の隣に座り、見守りながら食べている。			◎		
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	オープンキッチンになっており、調理風景など見れるようになっている。		◎	○		
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	体調や運動量などを考慮し、ご飯の量を調整しながら食べて頂いている。又体重の増減なども視野に入れ、ご飯、おかずの量を増減している。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	栄養補助食品を活用したり、お茶などの摂取が進まない方にはジュース等の提供で少しでも摂取できるよう努めている。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立委員があり、バランスよく食事摂取出来るよう食材が偏らないように献立を考え工夫している。栄養士のアドバイスは今のところない。			○		
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食器乾燥機の利用や、器具には消毒等行いながら管理している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食事前の口腔体操などを行いながら誤嚥につながらない様取り組んでいる。また食事後のうがいや歯磨き等、声掛けしながら取り組んでいる。				毎食後に、職員は声をかけ、歯磨きなどの利用者のできる方法で、口腔ケアを実施しており、職員は見守りやできない部分の介助をしている。介助が必要な利用者の口腔内は確認することができているが、自立して、自分で歯磨きができる利用者までは口腔内の確認をすることができていないため、月に2回や1週間に1回などと決め、定期的に全ての利用者の口腔内の確認を行い、異常が見られた場合には、早期の歯科治療に繋がれることを期待したい。また、実施記録には口腔チェック欄があり、実施の有無を○×で記載することができているが、コメントが記入できるような工夫を行い、実施できなかった理由や状態などをコメントに残すことで、職員間の情報共有が行いやすくなると思われる。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	歯の有無や痰の出具合、唾液の出具合など、様子経観しながら把握に努めているが、自立している利用者の口腔内は把握が難しい。			△		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	今現在は歯科衛生士などの支援はなく、口腔ケアについては研修で学んだ事を取り入れ支援している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日、ポリドントで消毒等行い、義歯がきれいに洗えるよう声掛けや洗浄介助など行っている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	ある程度は自分で行っていただき、出来ない面を介助している。痛みや、義歯が合わないなど起こった場合は、訪問歯科医によって改善できる様支援している。また、行きつけの歯科医がある場合は受診することもある。					○
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	見守りで排泄動作が出来る場合は、パッドなど厳選し自立で排泄動作が出来るように選び支援している。また、長時間の汚染にならない様リハパンの交換や、皮膚状態など確認している。				事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。睡眠の優先などから、夜間にパッドを使用せざるを得ない場合にも、日中に職員は声をかけて、利用者をトイレへ誘導するなどの支援に取り組んでいる。中には、利用者に合わせた職員の声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、失禁の具合や尿量などにより、排泄用品を使用する場合には、職員間で適切な用品の使用などを話し合うとともに、利用者の状態に合わせて、家族と相談しながら、パッドやリハビリパンツを選択している。さらに、カンファレンスの中で話し合い、パッドが合わない利用者に失禁パンツを使用するなどの工夫を行い、失禁がなくなった事例もある。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	運動不足などが原因で便秘傾向になることもあり、毎日体を動かす支援を行っている。また、便秘傾向になると、食事が進まなかったり、不機嫌になったり、トイレの訴えが多かったりと理解している。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	把握できている。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	その人に合った排泄量、自立度などを考慮し、リハパン選びや、パッド選びをしている。		◎			○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	なるべく便座に座って排泄、排便が続けられる様支援している。便座に座る事で排便を促している。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	定期的なトイレ誘導を実施している。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	個々にあった、リハビリパンツやオムツ、パッド等を使い家族に報告している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	自立度、排泄状況などを考慮し、その人に合った下着、おむつを使用出来る様にしている。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	一部、ヨーグルト摂取や、水分摂取量などを考慮、排便を促すための便座へ座るなど取り組んでいる。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	職員人数の都合で本人が希望する時間帯には入浴は出来ない。又、時間は午前中に限られるが、定期的に入浴出来るようにしている。		◎	△	週2回、利用者は午前中の時間帯に入浴することができる。事業所として、利用者の入浴日を決めているが、入浴順や湯の温度、湯船に浸かる時間など、利用者の希望に応じた対応に努めている。職員の勤務シフトで希望に沿えない場合もあるため、利用者が希望する入浴回数や午後入浴希望などを合わせて、柔軟な対応が行われることを期待したい。また、入浴を拒む利用者には、無理強いをせずに、時間や職員を変えて声かけをするなどの工夫をしている。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	介助者が一人つき、会話をしながら入浴したり、湯船でゆつくりつかれる事もあるが、体力面なども考慮し、長風呂にならない様支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る出来ないを把握し、出来ない所を支援している。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	本人が気持ちよく入れる言葉を話し、入浴につながる様にしている。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタルの確認や定期的に入浴できているか?など確認し、入浴後は水分補給など様子経観している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	一人一人の入眠時間に合わせ介助している	/	/	/	事業所には、安定剤を使用している1名の利用者がある。日頃から職員は、利用者が昼夜逆転しないように、日中に極力起きて過ごしてもらうなどの配慮をしたり、日中の活動量を見直したり、外気浴を取り入れるなど、夜間に利用者が安眠できるような支援に努めている。また、医師から、服薬の量の調整の許可が出され、管理者は利用者の様子を観察しながら、減薬に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	眠れない時は入眠出来るまで職員見守りにて支援している。又、昼間の入眠についても長時間にならない様になっている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	普段の生活の中から変わったことや、状態の悪化などについて解決できない問題については主治医へ相談しているが、毎回ではない。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室でゆっくり出来るような時間を取っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	◎	本人希望で携帯電話の所持や家族からの電話等は取り次ぐように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	文字が書ける利用者については贈り物のお礼を手紙にしたりは行った事があるが、今現在は電話をしたいという利用者はあまりなく対応は出来ていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族からの電話は取り次いでいる。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に届いたはがき等は本人に見せ職員と一緒に確認している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入所時に家族へ説明し、電話での対応など協力して頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人がお金を所持することで、満足感や落ち着いた生活が送れるなどの理解は出来ている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	職員が代行して買い物を行っている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	今現在は一部を除き、利用者はお金の所持はしていない。施設内の金庫でお小遣いを管理している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人がお金を持っておきたい利用者について、家族へ相談し、理解して頂いている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お小遣い帳を準備し、家族よりお金を預かった場合は、預かり証などの発行を行い、控えはおこづかい帳に張り付ける様にしている。毎月、お小遣い帳の内容についても、コピーを送り家族に分かるようにしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	希望があった際は出来るだけ希望に添える様に対応している。	◎	/	○	コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられた時期は、外出や外食などの対応できなかった要望もあった。外出制限が緩和され、買い物や外食などに出かけることもでき、利用者に喜ばれている。また、利用者の要望に応じて、出張マッサージの訪問を受け入れをしたり、家族の要望で、職員が通院の同行支援をしたりすることもあるが、要望は少なくなっており、出された要望には柔軟に対応している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関周り等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門は空いており、いつでも入れるようにしているが、現在は新型コロナウイルスの影響で訪問者は少ない。	◎	◎	○	建物の立地上もあり、近隣住民が気軽に立ち寄れる場所とは言い難いが、門扉は開放されている。毎朝、職員は広い庭を兼ねた駐車場をきれいに掃除をしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	家庭と同じような空間を心掛けている。又、季節の飾り物など工夫している。	◎	◎	◎	玄関には、敷地内に咲いている菜の花やスイセンが花瓶に活けられているほか、観葉植物を置き、すっきりと整理整頓されている。また、リビングにあるテーブルを合わせて、1つのテーブルとして利用者全員が向かい合いながら、レクリエーションや食事ができるようにしている。リビングの窓からは、手が届くほど近い場所に木々が眺められ、利用者は自然を感じることができる。さらに、小上がりの畳コーナーも設置され、共用空間の居心地の良い空間の雰囲気を引き立ててくれている。壁には、桜の木のちぎり絵や節分の飾り付けが行われ、外の眺めもあり、利用者は季節を感じられるようになっている。加えて、暖色の蛍光灯のほか、空気清浄機が置かれ、利用者の快適性にも配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日、生活する空間は掃除を行っており、快適に過ごせるよう支援している。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節感が感じられるような壁画、作成物など飾りつけ工夫をしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	利用者が共に落ち着く関係性が保てるよう居場所にも気を付けている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人が使いやすいものを使っていたい。	◎		○	居室には、ベッドや洗面台、エアコン、タンスが備え付けられている。利用者は使い慣れた物などを持ち込むことはできるが、持ち込みをする利用者は少なくなってきている。また、テレビやテーブルセットが置かれている居室があるほか、自分で掃除を行う利用者の居室には、バケツや雑巾が置かれるなど、自分らしい空間づくりをしている状況を確認することができた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	施設内はトイレの看板などがあり、判断が出来る様にされている。又、男子トイレ、女子トイレと張り紙を作り、トイレに執着している男性利用者が特定のトイレに入れるよう工夫している。			○	建物はバリアフリー構造で、環境整備が行き届き、利用者の動線も確保され、車いすの利用者も合わせて、ゆっくりと往来できるようになっている。また、利用者が認識しやすいように、貼り紙をしてトイレの場所を分かりやすく表示するなどの工夫をしている。さらに、男性利用者が決まったトイレで落ち着いて、排泄できるような配慮が行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者が希望するもの、ティッシュや新聞などは置くことが出来ている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることなく済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	出入り口にはカギをかけず、人の出入りはセンサーで音や光で分かる様にしている。開放的になっている。	◎	◎	◎	全ての職員は、玄関や出入り口に鍵をかけることの弊害は理解しており、日中に玄関と門扉は開放されている。また、利用者の安全面に配慮して、ユニットの出入り口にはセンサーチャイムが取り付けられ、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	自由な暮らしについて話を行う機会がない為、説明出来ない。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	職員全員が理解しているか?となれば把握できていないが、経過観察にそれぞれの病歴や現病を記入し把握できるように努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	経過観察と介護日誌に状態の変化を記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	普段の状態で心配事があれば、相談できる関係性がある。状態悪化の際は医療連携看護師に相談したり、主治医へ報告し指示をいただき対応している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	家族了承の元、本人が希望する医療機関へ受診もしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	毎月2回訪問診療により、体調管理を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	体調の変化があった場合は医療機関へ受診や結果報告など家族へ報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院などになった際は情報報告を行っているが現在は、訪問看護にて治療を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院の際は病院との連絡やサマリーなどをいただくようにしている。現在は入院になったことがない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週1回医療連携看護師が訪問し、状態を見て頂いている。その際、職員が不安に思っている事や、状態の変化など報告し指示をもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも連絡することが出来る体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日の健康観察や、入浴時などで何か気が付く事があれば、主治医へ相談や、医療連携看護師へ相談し対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	毎月、利用者が飲んでいる薬について説明し確認している。又状態の変化があった際は情報を共有している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	誤薬が起らないように、2重にチェックしている。薬を準備する職員、服用を支援する職員とわけ支援している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	排便状態や、トイレ回数(量)など確認しながら著しく変化がないか、記録に残し確認している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合は、家族との連絡を行い、今後の意向についても確認し方針を決めている。				事業所には、「重度化及び看取りに関する指針」があり、入居時に家族等に対応できることを説明している。利用者の状況に応じて、家族の意向の確認を行い、主治医や看護師と相談しながら、カンファレンスの中で、全ての職員が情報や方針を共有するよう努めている。また、法人・事業所として、積極的な看取り支援に取り組んでおり、24時間体制で医師や訪問看護師と連携して、チーム体制で支援している。さらに、看取り支援時に、家族は医師から説明を受け、事業所として看取り支援を経験しているが、他の施設や病院に転院する利用者もいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	主治医、医療連携看護師、訪問看護師等と話し合いながら方針を共有出来ている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	終末期に入った時は、職員が不安がないように、いつでも連絡が取り合えるように支援し、また支援方法もケアカンファレンスを行い見極めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族へはその都度会社の方針や、出来る事、出来ないことを説明を行いながら、理解を得るようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	ケアカンファレンスにおいてケアプランの充実や、最期についても準備をしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の気持ちを聞くこともあれば、聞かない(話さない家族)もいる為、十分とは言えないが、家族の気持ちを聞きつつ対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に感染対策の話し合いを設けている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染対策についてはマニュアルに沿い、対応できるようにしている。また感染対策委員会もある、手洗いの見直し、消毒の見直しなど勉強会を行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	新型コロナウイルスに関しては、情報共有し、感染対策を行いながら今現在も対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗、消毒等、いつでも行える体制を取っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入所が長くなると、良い関係性も生まれる家族と、そうでない家族もおられ、様々に関係を築いている。	/	/	/	コロナ禍以前は、家族会の際に、家族同士の意見交換や食事をすることができていたが、コロナ禍において、家族会は中止され、家族が行事に参加できる機会はない状況となっている。事業所には面会制限が設けられているが、感染状況を見計らいながら、玄関先などでの家族との面会が可能となっている。また、毎月事業所便りの発行に合わせて、担当職員が書いた手紙を添えて送付し、利用者の様子を伝えている。さらに、職員の異動報告を事業所便りに掲載して報告しているものの、退職時の報告はできていないこともあり、利用者家族アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職などが十分に伝わっていないことが窺えるため、担当職員の異動等を報告したり、運営推進会議録の中に、事業所の出来事や職員の入退職などを記載して送付したり、設備改修や機器の導入を報告するなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。加えて、家族から意見や要望が言えるように、面会時や電話連絡時、手紙を活用して、意見を収集できる機会を設け、意見を聞くように努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	以前は年一回、家族同士が関わられる家族会を企画し実施していたが、今現在は感染症の影響により出来ていない。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月一回、職員担当者がお手紙を書き、家族へ近況報告が出来る様になっている。また、新聞を作り、行事の様子や普段の生活を写真付きで家族へ送っている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	状況は話せる機会があった時などに認知症の具合や、出来る事、出来ない事など説明している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営上の変化があった場合、文章や電話で直接家族へ報告し理解を得られるようにしている。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	状況に応じて、家族説明し、対策案を話し理解して頂けるよう努めている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族が来訪時に職員が近況を説明したり、お手紙で近況をお知らせしたりしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時に説明し理解して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に対する規定はある。長期入院や、規定が破られた状態になると、家族説明の元、理解して頂くようになるが、今現在対象者はいない。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議等で地域の方とかわれるように努めている。グループホームの現状を理解していただけるよう努めている。	/	◎	/	コロナ禍以前は、事業所内で茶話会を開催したり、利用者と一緒に地域のサロンや夏祭りに参加したりするなど、地域住民との交流を図ることもできていたが、コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、地域行事がほとんど開催されていない状況となり、地域との関わりは難しい状況となっている。また、事業所周辺の散歩時に、挨拶や会話を交わす程度となっているが、以前から地域との良好な関係も築かれ、地域に事業所の存在は認知されている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	以前は夏祭り等の参加もしていたが、今現在は地域とかわれる活動はしていない。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	今現在は増えていない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	立地的に立ち寄れる場所ではなく、関係性がもたれていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りつらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	時々、ホーム隣の方に挨拶をしている。立ち寄ることは出来ていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	今現在は出ていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	避難訓練や、防犯訓練など、立ち合い協力して頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進会議は新型コロナウイルスの為、ホームで開催を見送っている。	×	/	○	運営推進会議には、利用者や家族、地域住民、他の事業所の管理者、市担当者等が参加して開催をしている。コロナ禍において、会議は書面開催となっており、行事報告や利用者状況、年間目標の振り返りなどを、会議の参加メンバーに報告することができているが、意見交換までは難しい状況となっている。会議には、家族の代表のみの参加となっているため、全ての家族に開催案内や資料を送付して周知したり、コロナ禍の収束後には、集合形式の運営推進会議や家族会等において、会議の意義や目的を説明したり、書面開催においても、会議の参加メンバーから意見を聞くなど、有意義な会議となるように、職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	行事報告やどういった活動を行っているか？利用者の状況などお手紙にてお知らせしている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	以前は出席しやすい日程を選び開催しやすい工夫をしていたが、現在は新型コロナウイルスの為開催を見送っている。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	ホーム理念があり、理念に向けての取り組みが行えるよう努力している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	廊下に掲示し誰もが見られるようにしている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	正社員は年2回、パート職員は年1回の研修に必ず参加出来る様になっている。	/	/	/	医師である代表者は、定期的に往診で事業所を訪れ、職員に声をかけて気軽に話しを聞くほか、職員と利用者の相談を直接行うこともある。実質は、管理者に運営が任せられ、職員と個別面接で意見を聞くほか、希望休や有給休暇を取り入れながら、シフト面においても働きやすい職場環境づくりに努めている。また、日頃から管理者は、職員の相談に応じるなど、話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、業務内容の意見がある場合には、管理者を通して、会社の総務に伝え、対応できる仕組みも構築されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	研修内容を顧慮し、職員へ割り当て、職員がスキルアップ出来る様に努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	管理者が各職員と面接、自己査定等を通して勤務状況や勤務態度などを審査し、給与や、賞与に反映させている。職員から業務内容について意見があるときは、業務の見直し等を行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	各研修会や勉強会などの参加を勧めている。愛媛県地域密着型サービス協会が主催する研修会に積極的に参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	職員等の悩みが発生したときは管理者に相談し、代表者に伝えるように努力している。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	職員等の悩みが発生したときは管理者に相談し、代表者に伝えるように努力している。	/	/	○	3か月に1回虐待防止委員会を開催して、職員間で話し合うほか、参加していない職員を含めて、議事録を全ての職員が閲覧し、周知を図ることもできている。また、身体拘束や虐待の防止などの勉強会で学び、全ての職員が不適切なケアを含めた正しい理解に努めている。また、利用者の安全面を優先することで、職員が大きな声で「待って」という言葉を発してしまうことも見られ、委員会の中でも、グレーゾーンの部分で課題となっているが、管理者はそのような場面に遭遇しないケアに努めるなどの注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	機会や場という事はないが、利用者を見た時など、管理者と一緒にケアについて話し合う事が出来ている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労感やストレスを感じていると察した場合は、声掛けに努め、職員間の会話で少しでも軽減できるよう努力している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	3か月に一回、身体拘束廃止に向けての行動について話し合う場を設けている。身体拘束について勉強会を行い職員全員正しく理解出来る様に努めている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	定期的に身体拘束について話し合い、ほかの職員へ周知徹底している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	今現在、身体拘束になる利用者がいない。やむを得ない身体拘束になる場合は家族と話し合い理解を求める様になる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	勉強会を開き、成年後見人制度について学んでいる。					
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	支援が必要時には、管理者に相談し、対応を考え相談が出来るようにしている。					
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	緊急時対応マニュアルがあり、いつでも拝観出来るようにしているが、職員全員がマニュアルの周知は出来ていない。					
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	講習などで応急手当の方法を学ぶ機会は出来るか?となると一部の職員が出来るのではないかと思う。					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットに記入し、改善策を話し合っている。					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	都度、職員間で話し合ったり、ケアカンファレンスや申し送り等で話し合い事故防止に努めている。					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルはあるが、職員全員、理解出来ておらず、不十分だと思われる。					
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	苦情が出た場合は速やかに対応し、改善になるよう努めるようにしている。運営推進会議にて議題とし、他の意見も聞くようにしていたが、今現在は新型コロナウイルスの影響で、意見を聞くことが不十分である。					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	地域や家族からの苦情等が出た場合は、速やかに上司に相談し、改善になるように対応し話し合いを持ちながら関係づくりを行った事もあった。					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	日々の会話の中で聞くことが出来る時がある。改善策を考えその都度対応し、職員で共有しながら改善に努めている。	◎		○	日常生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、対応をしている。家族には、面会時や電話連絡時、手紙を活用して、職員から声をかけて、意見や要望を聞くよう努めている。また、事業所内には意見箱が置かれているが、面会制限が設けられていることもあり、ほとんど利用されていない状況となっている。さらに、管理者とホーム長は、職員との会話を大切にして、現場の声を聞くほか、カンファレンスの中で出された意見を参考にしながら、サービスの質の向上に努めている。	
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	玄関に苦情ポストを設置し、意見が出せる環境にはあるが、今現在は苦情が入ることは見られていない。					
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	△	定期的にホームへ来所し、職員の意見等を聞く機会を作っている。					
		d	管理者は、自ら利用者一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	業務カンファレンスの時に職員の意見が言える体制を作っている。運営に関しては上層部に確認後、再度検討し、支援が行える様になっている。			○		
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	各職員、自己評価に目を通し評価の意義を理解出来る様に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者やホーム長等が意見を取りまとめ、ユニット毎に作成をしている。また、カンファレンス等の中で、職員にサービスの評価結果を報告し、目標達成に向けて取り組んでいる。さらに、運営推進会議の中で、評価結果を報告しているが、会議に参加していない家族にまでは報告することができていないため、全ての家族に、簡潔に取りまとめた評価結果を送付するなどの対応が行われることを期待したい。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族に、目標達成に向けた取組みの状況を報告したり、モニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、サービス評価の取組みの意見をもらいながら、サービスの質の向上に繋げられることを期待したい。	
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	年一回自己評価の時間を作り、職員全員で把握できるように検討会を開いている。					
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果は、管理者会議で報告し、運営推進会議でも発表を行い今後の取り組みについて話し合っている。		○	○		△
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	他の事業所の取り組みを聞く機会があり、確認出来ている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害マニュアルを作成し、職員全員周知出来るようにしている。	/	/	/	法人・事業所として、災害マニュアルを整備し、職員に周知をしている。年2回、様々な場面や災害を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍以前は、地域住民等も参加して、合同訓練を実施するほか、管理者等が、地区の自主防災組織の会合にも参加協力することもできていた。以前からの地域との関係性もあり、災害発生時に、地域住民や消防署、警察などの協力支援体制は構築されている。利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、家族に十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、避難訓練の様子の写真を事業所内に掲載したり、家族に避難訓練への参加協力を呼びかけたりするなど、家族等への安心安全な取組みが理解してもらえるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日勤帯、夜勤帯の設定ですみやかな通報、避難の実施が行えるよう訓練を実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難訓練時に定期的に点検し、期限切れなどにならない様にしている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近隣での避難が出来る様になっている(白滝小学校が避難場所)	×	◎	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	以前は地域自主防災の訓練に参加し、地域での災害対策について学ぶ機会があったが、ここ2年は開催がない状態。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域サロンに参加で情報発信を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により参加出来ていない。	/	/	/	前回の目標達成計画に掲げて、地域のサロンへの参加や、地域住民との茶話会の開催などを考えていたが、コロナ禍において、実現に至っていない。また、コロナ禍が継続する中で、相談支援を行うことは難しい状況となっている。以前は、中学生の職場体験の受け入れに協力することもできていた。さらに、市グループホーム連絡会に参画して、他の事業所と意見交換をするほか、法人・事業所として、市行政や地域包括支援センターの会議や研修に参加する機会は少ないものの、連携や協力を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	家族からの相談があったときなど、耳を傾け助言できるようにしている。	/	○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	家族からの相談があったときなど、耳を傾け助言できるようにしている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	地元中学生の職場体験などの要望があれば受け入れる体制をとっているが今現在は無い。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	以前は地元小学校の行事に参加したり、地元の保育園行事に参加していた、ボランティアへの参加は出来ていない。	/	/	○	